



- 1 小さなぬくもりに、思わずにっこり／2 一生懸命な泣き顔も、みんなを笑顔に
3 ママのヨーヨー釣りゲーム中は、ベテランママが赤ちゃんを見守ります／4 会話も弾むおやつタイム

「もつと集まれる場所を」から始まった地名カフェ

地名カフェが始まったのは、令和元年8月。当時、主任児童委員を務めていた八木朝子さんと、民生委員を務めていた椎野恵子さんのもとに、地域の人から「もつとみんなで集まる機会が欲しい」という声が寄せられたことがきっかけでした。

高齢者が地域の中で孤立することなく、顔を合わせ、話をしながら、地域の人が仲良く楽しく暮らしていける場所をつくりたい——そんな思いから、地名カフェはスタートしました。始まってまもなく新型コロナウイルスの感染拡大という難しい時期を迎えましたが、活動をつなぎながら、地域の交流の場を育ててきました。

現在は、毎月第2・第4水曜日に開催。スタッフ10名ほどが運営し、毎回15～20名ほどが集まります。体操や脳トレゲーム、スローエアロビクス、時には講師を招いた体験など、参加者の声も取り入れながら活動しています。



今月の表紙

お母さんが釣ったヨーヨーと♪

子どもから高齢者まで顔の見える地域へ

地名カフェが大切に行っているのは、カフェに集まる人だけでなく、地域のさまざまな世代とのつながりです。今回の七夕イベントも、その一つ。普段は接する機会の少ない乳幼児や子育て世代と高齢者が同じ時間を過ごすことで、自然な会話や触れ合いが生まれました。

「集まる場所がほしい」という地域の声から始まった地名カフェ。人と人が顔を合わせ、笑い合える小さな機会を積み重ねながら、誰もが地域の中でつながりを感じられる居場所になっています。

Pick Up
01



七夕飾りに願いを込めて「はい、チーズ！」

今月のピックアップ

地域でつなぐ七夕の輪

地名カフェのメンバーと子育て支援施設こもれびの親子が七夕飾りづくりやゲームを通して交流。子どもたちに癒やされ、笑顔溢れるひとときを過ごしました。

七夕がつないだ世代を超えた交流

7月8日、地名地区で活動する「地名カフェ」が、子育て支援施設こもれびのおでかけデーに合わせて、七夕イベントを開催しました。

当日は地名カフェのメンバーと3組の親子が参加し、七夕飾り作りや、ヨーヨー釣りゲームを楽しみました。赤ちゃんを抱っこしたり、優しく声をかけたりする交流の中で、会場にはあちこちで笑顔が広がりました。色とりどりの飾りや願い事を書いた短冊でいっぱいになった笹を囲み、世代の垣根を越えて、にぎやかな七夕のひとときとなりました。



願いを込めた七夕飾り

今年も届ける川根茶

暑い夏を、川根茶とともに健やかに。川根茶業協同組合の若手メンバーである川根茶業青年団が地域の福祉施設や学校に川根茶を届けました。



川根茶の魅力地域へ届ける青年団の皆さん

今年も川根地域へ

川根茶業青年団が、川根地域の福祉施設や小中学校など約20施設へ、今年の川根茶で作ったティーバッグを贈呈しました。この活動は、地域の皆さんに川根茶に親しんでもらおうと毎年行われている取り組みで、今年も、デイサービスみずかわや憩いのいずみなどを訪問し、日頃の感謝と川根茶を届けました。

真心込めて箱詰め

贈呈するお茶には、組合役員から集めた茶葉を使用し、青年団員が協力して、一つ一つ丁寧に箱詰めしました。暑さが厳しい季節に、川根茶を味わいなが



集めた茶を丁寧に箱詰めします

ら元気に夏を過ごしてほしいという思いも込められています。地元で育ち、地域を代表する特産品として親しまれてきた川根茶。毎年の贈呈を通じて、地域の人たちがお茶に触れる機会をつくるとともに、生産者と地域とのつながりを育んでいます。

川根茶業協同組合は

川根本町と旧川根町（島田市）の茶商や茶農家で組織される団体です。川根茶の振興を目的に、品質向上や販売促進にも取り組んでいます。今回の活動のほか、町内外でのイベント出展など、川根茶を身近に感じてもらう機会をつくり、川根茶の魅力を発信しています。



茶茗館でのイベント出展の様子

学びは子どもが主役

義務教育学校で、子どもが主体となる新しい授業づくりが進んでいます。
光の森学園の公開授業でその取り組みが紹介されました。



6年生の理科の授業：AIを活用して、より良い新聞を作成する様子

「教える」から「支える」へ

町では、子どもたちが自ら考え、学び、自分の人生を切り拓く力を育むための授業づくりを進めています。教師が知識を一方的に教えるのではなく、一人一人の学びに寄り添う「伴走者（サポーター）」となり、子ども自身が主体的に学ぶ授業へ転換することを重視しています。

7月8日、光の森学園で町内の義務教育学校の全職員を対象とした研修会を開催。授業を地域の皆さんに公開しました。

主体的な学びを育む授業

6年生の理科「動物のからだのはたらき」の学習では、これまで学習したことをまとめた新聞をAIに分析させました。AIの意見をそのまま受け入れるのではなく、自分でAIの意見を吟味し、より良い新聞にすることに挑戦しました。また、8年生の国語では、「単元内自由進度学習」を取り入れた授業を行いました。全6時間のうち4時間は、生徒自身で学習計画を立て、自分のペースで学習を進める授

業を行い、教師は必要に応じて支援する役割を担いました。

未来を見据えた授業づくり

変化の激しい時代の中で、子どもたちが自ら考え、判断し、学び続ける力を育むことはますます重要になっています。町では、子どもが主体となる授業づくりを通して、一人一人が「なりたてい自分」を実現できる力を育んでいます。



8年生の自由進度学習の様子

11月4日(水)三ツ星学園で第2回公開授業を開催！

地域の方は、どなたでもご参観いただけます。町が目指す授業と子どもたちの姿を見に、ぜひお越しください。

川根高校に新学科「共創科」誕生

地域の人や仲間と関わりながら、自ら問いを見つけ、考え、行動する。
川根というフィールドを活かした、新しい学びが始まります。



星空×探究



川根地域交流会



鹿ん舞×探究



高校生議会



地域交流×探究



インド研修

生徒が地域の協力を得ながら探究学習を進めていきます

地域や仲間と未来を創る

静岡県立川根高校では、令和9年度から新学科「共創科」を設置します。

共創科は、仲間や地域と共に未来を創り上げることを目指す学科です。普通科と同様に5教科を中心とした授業を行いながら、同校がこれまでに取り組んできた探究学習をさらに充実させ、生徒が「未来を切り拓く力」を身につけることを目指します。

探究学習では、生徒自らが問いを持ち、「課題設計」「情報収集」「整理・分析」「表現・まとめ」という一連のサイクルを繰り返しながら、課題解決に取り組めます。

「やりたい」を出発点に 広がる探究

同校では、「総合的な探究の時間」で生徒一人一人がテーマを設定して個人探究を行うほか、学校設定科目「地域創造基礎・地域創造」で、地域の人たちの協力を得ながら地域探究に取り組めます。

そのテーマは多岐にわたり、川根茶のさらなる価値や魅力を考える「お茶×探究」をはじめ、観光、町づくり、芸術、伝統、スポーツ、海外など、それぞれの興味や関心を地域や社会と結びつけながら学びを深めます。

「将来力フェを開きたい」「看護師になりたい」「スポーツトレーナーになりたい」といった一人一人の「やりたい」から探究を始め、卒業後の進路につながる経験を重ねていくことも、この学びの特徴です。

川根地域そのものを 学びの場に

共創科の探究では、川根地域の自然や文化、産業、人とのつながりも学びの資源となります。

例えば、「観光×探究」では、星空や地域産品などを生かした観光企画や情報発信を考える活動などが示されています。

また、地域に伝わる郷土芸能や伝統文化、地域と連携した芸術活動、地域参加型のスポーツイベントなど、学校の枠を超えた学びも展開。川根地域そのものを学びの場へとつなげます。